

上坂すみれ



「初めてのロシアは、大学のロシア語演劇サークルの合宿だそうですが、印象はいかがでしたか？」

ロシアのいい面もそうでない面も事前に聞いていたので、イメージ通りではあったのですが、それでも見るものすべてが新鮮でした。そういうえば、スーパーで黒パンが床にぶちまけられていたのはびっくりしました！ 袋が開けられた黒パンが床一面に落ちていたのですが、あれはなんだったのか…。どうしたらいいかわからず戸惑ったのを覚えてます。

あとは、安いものから高いものまで牛乳の価格の幅がやたら広がったのも驚きました。一番安いものを買った先輩は、翌日パックが膨らんでしまったそうです。それから、野良犬が可愛かったですね。モスクワの野良犬は大きいのに大人しくて、酔っ払いの人と寄り添って寝ていたり…。ボロボロの車がガムテープを貼って走っていたり、事故を起こした車から照れ笑いを浮かべた人が出てきて、「やっちゃいましたね、やあ、どーもどーも」みたいな感じでした。しゃべりだしたりして平和だと思いました。おおら

かですよね。チケット売りのおばちゃんは、「私は黒髪が大好きなの、きれいなねー」って話しかけてくれました。レジのおばちゃんは無愛想で、それはそれで面白かったです。

滞在中は日本語を勉強しているロシアの学生の方にお世話になりました。最後に私が携帯につけていた「らき☆すた」のストラップをあげたら、すごく喜んで大事にしてくれて、嬉しかったですね。

「ロシア・ソ連好きということで周囲から怪訝な顔をされるようなこともありましたか？」

あー…ずっとですね。「ロシアってあれでしょ？ 1つの間にか処刑されたりするでしょ？」というようによく分からないことを言われて…(苦笑)。とにかくロシアに対する日本人のイメージが凝り固まっていて、しかも若干誤解があるので、それを直したいとは思いますが、なかなか分かってもらえない高校時代でした。大学に入って声優のお仕事を始めてからは、話の合う人もいることが分かって嬉しいですね。

ソ連やロシアが好きな漫画家さんで、速水螺旋人先生(※1)という方がいて、私も先生の漫画の帯にイラストを描かせて頂いたこともあるのですが、先生が描いているようなステレオタイプではないロシアも知ってもらいたいですね。

「日本におけるロシアのイメージと言えば、クラシック音楽や19世紀文学などのハイカルチャー、フィギュアスケートなどのスポーツ、あとは社会主義やウオッカなどの社会や風俗が一般的かと思いますが、いかがでしょうか？」

ロシアとゆかりの深い方々に、新たな日ロ関係の可能性についてお話をうかがう「JSNインタビュー」シリーズ。第1弾は「10000号記念増刊号」で日ロ両大使にご登場願いました。

第2弾は、声優の上坂すみれさんです。ソ連を知らない1991年生まれ、ロシアとロリータファッションをこよなく愛し、ソ連戦車に造詣が深い、ロシア語科の現役大学生。ポップカルチャー世代が語るロシアの魅力をお伝えます。

そうしたイメージがあるのはいいことだと思いません。そして、「それだけではよく分からない」というところから私も出発しました。ロシアの文化は幅広いですよ。日本で既に知られているものが更に広まるのはいいことですし、私は他にもこんなに面白いものがあるんだよ、ということ伝えていきたいです。

例えば私はロシア・アバンギャルドが好きで、大学の公募推薦の小論文はアバンギャルドのテーマで書きました。ロトチェンコとかステンベルグ兄弟とかが好きです。アバンギャルドは芸術だけでなく、工場の生産率アップのポスターまでやたらかっこいいんです。識字率向上を呼び掛けるポスターが構成主義風だったりして独特ですよ。芸術と政治がマッチしていた時代に興味をそそられます。日本ではロシア・アバンギャルドの展覧会が開かれることもあったりして、好きな人はけっこういるようですね。

また戦車のお話に戻ると、日本では『グランドパワー』のようなミリタリーの専門誌がソ連の戦車を紹介しています。やはり独ソ戦の時代がアツくて、昔から連綿と紹介され続けていてよく知られています。ドイツとロシアという真逆の工業哲学がぶつかるというのが醍醐味で、ロシア軍ファンもけっこういます。日本のミリタリーファンがロシア語を習得して、ロシアの軍事サイトを調べたりしていますし、螺旋人先生のように現地に行かれる方もいます。私もミリタリー書籍は好きで、ロシアに行ったときにたくさん買いました。通読するのはなかなか難しいですけどね(笑)。

最近ではミリタリーと萌えの「コラボもよく

あって『MC☆あくしず』という雑誌がその先駆的な存在で、戦闘機や戦車やミサイルを擬人化したりしています。日本人は擬人化が好きみたいですね。

ソ連の戦車はドイツなどと比べてつくりがとてもしンプルで、こんな金属の塊が動くのかと思いたくなるんですが、実はすごく合理的なんです。パーツも少なく、訓練もあまりいららず、実用性に基づいて造られている「実はできる子」のイメージですね。

「昨年ブーチン氏が大統領に就任して以来、ロシアは「ソフトパワー」に力を入れて、海外でのイメージを改善するとの意向を発表しています。日本で韓流ならぬ「露流」が起きる日は来ると思いますか?」

日本人にはロシア文学を好きな人が多いですね。私はどうしてもトルストイが最後まで読めないのですが、ドストエフスキーは大好きです。他にプーシキンの『スペードの女王』なども言葉の響きが良くて好きです。これぞロシアという感じの作品は、日本人のセンスによく合うと思います。最近では、映画にもなったベリヤーエフの『ドゥエル教授の首』(※2)が面白かったです。

「ロシアの映画もよく観ますか?」

映画はソ連の古い戦争映画が好きで、五〇〜六〇年代の、今では放送できないようなすごいテンションの戦争映画があつて面白いです。『鬼戦車T-34』(※3)は、日本でも観ることができますが、日本人には絶対つけれないと思います。ソ連のプロパガンダ映画のノリがとっても好きです。日本の国策映画とは違った、なんというか、あの幸福感に満ち溢れた感じが(笑)。エイゼンシュテインの芸術的な映画とは違った面白さがあります。他にもロシア革命アニメーション作品集のDVDがあるので、独特のたまらない感





じの作品が多いです。デイズ二ーっぽい雰囲気なのに、出てくるのは「工場」と「労働者」とあからさまに悪い「敵国」と正義の「共産戦士」みたいな感じで、今では絶対に生まれないような文化が私にはとても新鮮で、面白いですね。

ロシア映画は日本でも時々上映されていますが、以前観た『変身』が印象に残っています。

ロシア人の演じるザムザがすごすぎて…。CGが一切なく動きだけで虫を演じているんですが、ザムザが虫すぎてすごいです。ポロポロに

なつて家族からも捨てられて、何も救いがないんですが、全てが本気で、全ての表現が張り詰めていて、感動しました。原作はもつと抽象的でシユールな感じだったと思うのですが、映画では俳優さんが虫のポーズをしてカーテンによじ登ったり、妹に蠅叩きで殴られたりして、すごい映画でした。

コミカルな映画では『キン・ザ・ザ』が面白いです。大学に入る前にテレビでロシア語講座を見てロシア語を予習していたとき、そこで紹介されてから気になって観てみましたが、メカがまずすごいですよね。現代のSFにまったく逆行するようなデザインで、動きもコマ送りみたいにカタカタしていて、ランプの光り方とかも何とも言えません。他にも、「クー」と「キュー」しか言葉がないのに唐突に辞書が出てきたりしますが、込められたメッセージを読み取るとかいう以前に、純粹に「これは一体？」という目で見られると思います。それが私のロシアSFとの出会いでした。他にも『火を噴く惑星』とか面白いものはありますが、とにかくソ連・ロシアのSFは独特で、ただで説得力があるように思います。ロシアの映画はまず視覚的に面白いので、観てみたらみんなびっくりするんじゃないかなと思います。

ロシア人はどちらかというと内向的で、海外に積極的に文化発信するという感じではありませんが、日本人との相性という点ではどうでしょうか？

もう仲間になるしかないですよ。日本人にも似たようなメンタリテイが少なからずあると思うので、絶対に気が合うと思います！

※1 速水燐旋人：漫画家、イラストレーター。ソ連・ロシア、ミリタリー、アナログゲームなどへの豊富な知識と愛に裏打ちされた作品には定評がある。主な作品に『大砲とスタンプ』『靴すれ戦線』など。MC☆あくしゅ』では人気コラム「ロシア妄想主義概論」を連載中。

※2 『ドワエル教授の首』…1984年製作ソ連映画。ハリヤーエフの同名小説が原作。監督はレオニード・メナケル。

※3 『鬼戦車T-34』…1964年製作のソ連映画。監督はニキータ・クリーヒンと前述のレオニード・メナケル。ソ連製戦車のT-34が全篇にわたって走り回る。原題は『Карабонок』。

※本稿は「月刊ロシア通信」6月号に掲載したインタビュー（取材日5月十一日・モノクロ2頁）の未録部分を中心に構成しました。

上坂すみれ (うえさか すみれ)

1991年生まれ、神奈川県出身。O型。スペースクラフト・エンタテインメント所属。現在上智大学外国語学部ロシア語学科に在籍中。子どもの頃よりジュニアモデルとして活動し、2012年、TVアニメ『パパのいうことを聞きなさい!』で声優デビュー。その後も、TVアニメ『中二病でも恋がしたい!』『ガールズ&パンツァー』『波打際のむろみさん』などに出演。4月24日『七つの海よりキミの海』でCDデビュー。7月10日、2ndシングル『げんし、女子は、たいようだった。』リリース。9月には、DVD&BlueRay『革プロ潜入ルポルターージュー趣味者集団を追えー』をリリース予定。ソ連・ロシアに対する深い愛情と研究熱心さ、ミリタリーファンとしての造詣の深さには定評がある。

